

自然と生き物の色々な話

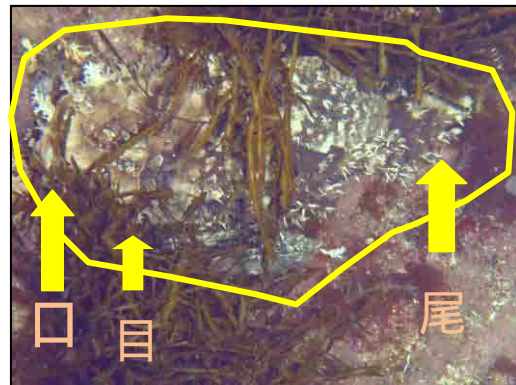
～かくれんぼする魚～

海の生き物は、さまざまな方法でエサをとり外敵から逃げて暮らしています。そのための手段の一つに「隠れる」という方法があります。

ひと口に隠れるといっても、岩のすきまや穴といった外敵が入ってこれない狭いところに隠れる魚もいれば、周りの風景を利用してあたりに溶け込むように隠れる魚もいます。



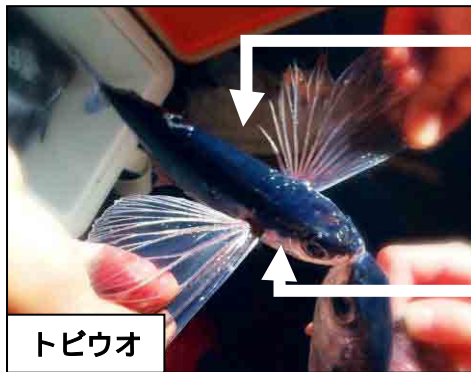
クサフグ（草河豚）



オコゼ（鰐）

たとえばクサフグは砂に潜って体を隠しますが、オコゼは岩にへばりついてじっとすることで岩の一部となりきって体を隠します。

全く隠れていないように見えるアジやイワシ、トビウオも外敵から気づかれにくい体の色をしています。



トビウオ

背中が青や紺色をしているのは、上から見たときに体が海の青さにまぎれることで、大きな魚や鳥の目をごまかすためです。

腹側が銀色をしているのは、下から見たときに水面の光の反射に体がまぎれることで大きな魚の目をごまかすためです。

このように、生き物はさまざまな方法で身を隠し、外敵から身を守ったり、エサとなる生き物を待ち伏せしたりしています。

クサフグ、オコゼ、トビウオの他にも、隠れ上手な魚はたくさんいます。次のページでその一部を紹介します。



隠れ上手な魚



ヒラメ(鱚)

すな 砂にまぎれることによって からだ かく 体を隠しています。同じような かく かた 隠れ方をする さかな 魚にカレイがいます。

いそ 磯やきれいな砂地で、よく注意してみれば、カレイやヒラメを み 見つけることができます。

ちなみに あたま うえ お した み 頭を上、尾を下に見たときに目が右に寄っていれば ひだり よ ヒラメ、左に寄っていればカレイです。



ハナオコゼ(花臙)

なが も うみ うえ ただよ かいそう 流れ藻という海の上を漂う海藻にまがれています。

なが も こざかな こ あつ こざかな こ 流れ藻には小魚や小エビが集まるため、その小魚や小エビを た 食べるためにながもに似せて、うみ うえ ただよ 海の上を漂っています

オコゼと名前がついていますが背びれに毒はありません。



タツノオトシゴ(竜の落とし子)

かいそう お ま つ かいそう 海藻に尾を巻き付けて、海藻に似せています。

写真のような黄色くお腹が大きなタツノオトシゴより、 ちやいろ なか 茶色くてお腹がひっこんだタツノオトシゴを み 見つけることの ほう おお 方が多いです。

いっけん ひとつめ ひとつめ た ひとつめ からだ うみ み 一見すると、とても目立ちそうな体をしていますが、海で見ると かいそう 海藻にそっくりなため、み 見つけるのはむずかしいです。



カサゴ(笠子)

いわば 岩場をすみかにすることが多く、深いところにすむカサゴ は あかいろ あさ 赤色、浅いところにすむカサゴは くる はいいろ 黒や灰色っぽい色をしています。

いわば 岩場にじっとしてほとんど動かないため、じっくり かんさつ 観察することができます。

